

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成29年度第2回 社会教育委員・公民館運営審議会委員 会議		
開催日時	平成29年12月4日（月）10：00～11：20		
開催場所	南別館2階会議室		
出席者 会 長◎ 副会長○	<社会教育委員> ○中江委員 随井委員 村地委員 福井委員 橋委員 万野委員 矢倉委員 吉井委員 中野委員 三木委員 城念委員 重野委員 <説明者・事務局> （事務局） 明石生涯学習課長 奈良生涯学習課参事 岡田生涯学習課副主幹		
次回開催予定日	未定		
問い合わせ先	所属名・担当者名： 近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課 岡田 電話番号：0748-36-5533 Fax番号：0748-36-5565 メールアドレス： 045000@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録・要 約	要約した理由	内容が整理され、記録として残すことに適しているため

事務局	開会宣言と出席者確認 (委員長がやむを得ない理由により欠席のため、副委員長が代わって委員会を主宰する。)
副委員長	副委員長あいさつ
事務局	議事を交替 (副委員長による議事進行) 3. (1) 社会教育委員の会議の部会テーマについて (報告)
事務局	《社会教育委員の会議の部会テーマについて説明》
議長	説明について意見・質問を求める。
委員	・「地域支援本部」「コミュニティ・スクール」「社会教育委員」この3つが学校との関わりで、どこで調和を取るのかということがなかったらどこまで言っているかわからない。 ・コミュニティセンターは箱物である。拠点というのは拠点そのものが地域に主体的に何かを発信することを指し、発信することなしの拠点というのは箱があるだけ。コミュニティセンターの運営がまちづくり協議会であるならば、2つめのテーマは「まちづくり協議会と社会教育」というのが正しい。 ・まちづくり協議会が、コミュニティセンターがと言ったときに、市のまちづくり支援課とどの立ち位置でこのテーマに取り組むのか。
委員	・調査・研究する場合は、「まちづくり協議会と社会教育」というよりも、あえて「コミュニティセンターと社会教育」の方がよい。 ・「学校と地域の連携・協働」は過渡期で、学校と地域との関わりをどうしていくかを考えていく必要がある。 ・地域の状況を知り、調査・研究により状況を把握する初期的な段階である。理論的、法律的というよりは、現状把握をしながら地域を知る意味で、現段階ではこの2つのテーマ(案)でよい。
議長	・委員15名の中では多くの部会を設置はできない。部会をするのであれば「学校」と「コミュニティセンター」の2つの分野でよい。 ・社会教育委員がどういうことを考え、どういう関わりをしていくかを思いながら部会のことを考えている。皆様のご意見を聞きながら、それを参考にさせてもらって部会の進め方について説明願う。
事務局	《部会の進め方について説明》

議長	説明について意見・質問を求める。
委員	・部会の進め方で、研修の一環とあるが研修のイメージはあるのか。
事務局	・各部会で計画を立て進めていただこうと考えている。
事務局	《各テーマにおける課題について説明》
議長	委員の皆さんのそれぞれのお立場で、忌憚のないご意見を求める。
委員	・まちづくり協議会の事業のやり方に対して社会教育委員が、どのような意見を出していく立場にあるのかが、社会教育委員という立場にありながらわかっていないというのが現状である。 ・まちづくり協議会に対する全体的な関わり合いが必要であるとする。まちづくり協議会の活動報告書は出ているが、各まちづくり協議会におけるそれぞれの活動を集約したもので、全体のまちづくり協議会として検証はできていない。そういう意味では何らかの形で外部からの違った意見が入ってくることも必要とする。
委員	・学校支援地域本部事業では、たくさんの地域の方に支えていただきながら学校教育活動を進めている。学校によっては年間300から400人の方が学校に入ってきていただいている。子どもにとっても、この経年の取組みの中でたくさんの方が学校にいてくださることが、だんだん当たり前になってきた。その分、教員の方も違う角度で子ども達の授業を見直すことができてきている。そして、隙間の時間を非常に多く支えていただいている。例えば、休み時間とか、掃除の時間とか、本校では「学校みまわり隊」という名前で掃除の時間に校舎を見回っていただいて子ども達に声かけをしていただきながら、いろいろな面で子どもの多面的な支えをしていただいている。その事を知っていただくというのは大事なことです。 ・初年度の取組み初めとしては欲張らずにまずは現状を知り、今度は地域と双方向に学校がどういう役割を地域のために果たしていくのかというご示唆をいただけるとよい。 ・学校間で特色があるので学校支援地域本部事業も学校独自のものが色濃くなっている。今後、地域学校協働事業にシフトしていくために、市全体としてその枠組みをどのように考えていったらいいのかということも協議していただくような部会になるとよい。
委員	・地域学校支援活動になるとこれまでの学校支援地域本部事業のやり方が変わるのか。コーディネーターの配置はどうなるのか。
事務局	・大きくは変わらない。今の枠組みを使って事業を移行していく。これまでの地域から学校への「支援」一方方向だけではなく、お互いに双方向からの連携・協働の部分で、「学校からも地域へ」の部分をどうしていくかという考え方が増えていく。

	・コーディネーターという名称は変わるかもしれないが、地域と学校をつなぐ役割の方は今と変わらずいる。
議長	・先ほどのお話の中で、子ども達が多く地域の方にお世話になっている、知っているということが浸透してきて、喜んでおられるということだが、家庭、保護者とのお互い様ということが、家庭、保護者にも関係すると思う。家庭との連携についての考え方も地域学校協働活動の中で考えているのか。
事務局	・家庭との枠組みというのは国の施策の中にある。地域学校協働活動とは別枠になっている。本市でも家庭教育基盤形成事業として実施している。
委員	・学校支援地域本部事業と家庭あるいは、PTA を中心にいろんな活動をしていただいているが、実施の事業の中身も若干違うので、保護者にもこの学校支援地域本部でお世話になっている地域の方の活動を、知っていただく、理解していただくことが必要だと思っている。 ・PTA 総会に地域コーディネーターから年間事業の報告をしていただいたり、学校評議員会でも活動の報告や協議をしていただいたりしている。その中には PTA 会長に出ていただいている。 ・お互いに活動を知った上で子ども達を見ていこう、いろんな側面から子ども達を支えていこう、ということは協働するという意味では非常に深い。
委員	・コミュニティ・スクール、地域学校協働本部、どの切り口の部分で扱う役割なのかを知る必要がある。 ・まちづくりをまちづくり支援課は、こういう部分で支援する、中央公民館はこういう切り口で問いかけていく、ということが「部会の進め方」の前にないと、何をやっていったらいいのかがイメージできない。
委員	・委員の皆様はそれぞれの部門で情報を含め研修を積んでおられるが、個々に持っておられる知識は違う。それを統一する意味で資料 1 の 1 をわかりやすく具体的にする。 ・コミュニティセンターへの関わりの部分で、まちづくり支援課と生涯学習課とそれぞれ所管する分野があるので、それを皆がわかった上で次の段階へ進める。
委員	・社会教育委員の研修会では、この人しかできないという話を聞かせてもらう。あれが本当にまちづくりなのか、そういう人がいないとまちづくりは成り立っていかないということは事実だが、あれそのものがまちづくりかという、まちづくりとは何だろうと思う。社会教育の話からすると、どういう切り口で言っているかにすぎない。
議長	・最終目指すところは「人づくり」である。人は宝、人財である。役が終わったら知らん顔ということがないような人づくりが、1 のテーマ、2 のテーマ、そして部

事務局	会でも大事である。その部分で我々社会教育委員がこういうことが大事だと言える社会教育委員になっていこうということである。 ・社会教育委員としてコミュニティセンターにどこまで意見できるのかわからない部分もある。 ・社会教育全体のことを考えて提言のできる社会教育委員になるために、部会で活動していこうというのが目的である。 ・社会教育の全部を見ていくのは無理なことなので、しぼっていくことが必要である。 ・初めての試みとなるので、部会制を実施しておられる長浜市や彦根市のお話も聞きながら進めていきたいと考えている。
委員	・教育委員会で実施されている事業だけに意見するというよりも、こういった活動の話を聞かせてもらえたらよい。
委員	・部会制をとられているところのお話を聞かせていただき、どのような活動をしておられるのかを知ってから、どちらの部会に所属するかを決めたい。
委員	・今までは安土の文化協会の会長として活動の全体を見させてもらっていたので、両方で意見が言えると思っていたが、役を引かしてもらった。今は学校へボランティアとして支援をさせてもらっているので、意見を言わせてもらえと思う。
委員	・「学校と地域の連携・協働」はすごく必要だと思う。是非そういった部会を設け勉強し、またそれを踏まえて意見を出していきたい。 ※部会のテーマについては、「学校と地域の連携・協働」「コミュニティセンターと社会教育」という2つの部会を設けることで承認をいただいた。 閉会